

7) 折れ点を流量節点に変換機能(折れ点→流量節点)

本プログラムでは、一旦「折れ点」と設定した後「流量節点」へ変換することが可能です。
 例えば、「流量節点①-②」間の管長が長く、且つその管路を複数の「折れ点」で構築していたとします。その後、設計変更等が生じ、その管路上に新たに「流量節点」を設ける必要が生じた場合、従来では、その管路「①-②」を一旦削除して、その間に「流量節点③」を設け、再度管路を「①-③-②」と繋げる必要がありました。

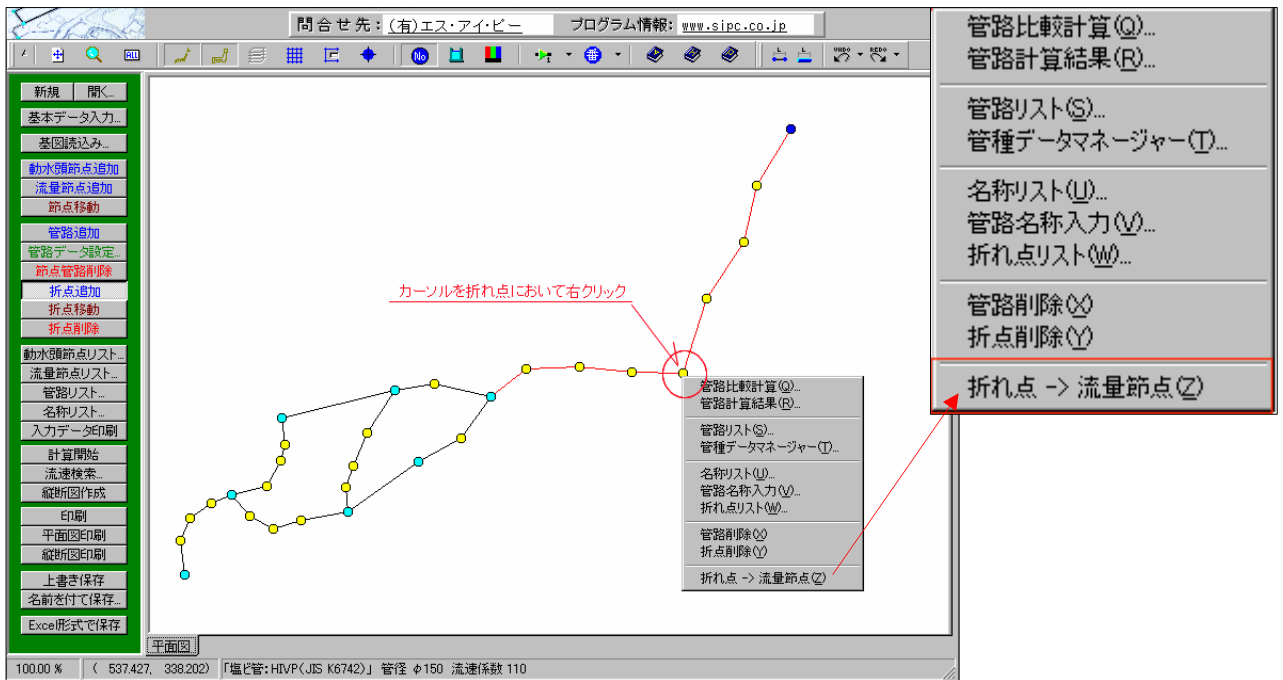
その結果、管路を削除した時点で「折れ点」も削除されていますので、再度現況に合わせ「折れ点」を再設定する必要がありました。(Ver2.4.19.166以前の商品)

その点を考慮し、「折れ点」を「流量節点」に置き換える事で操作性を向上しました。

設定に関する操作方法と注意点は以下の通りです。(Ver2.4.20.167以降で対応)

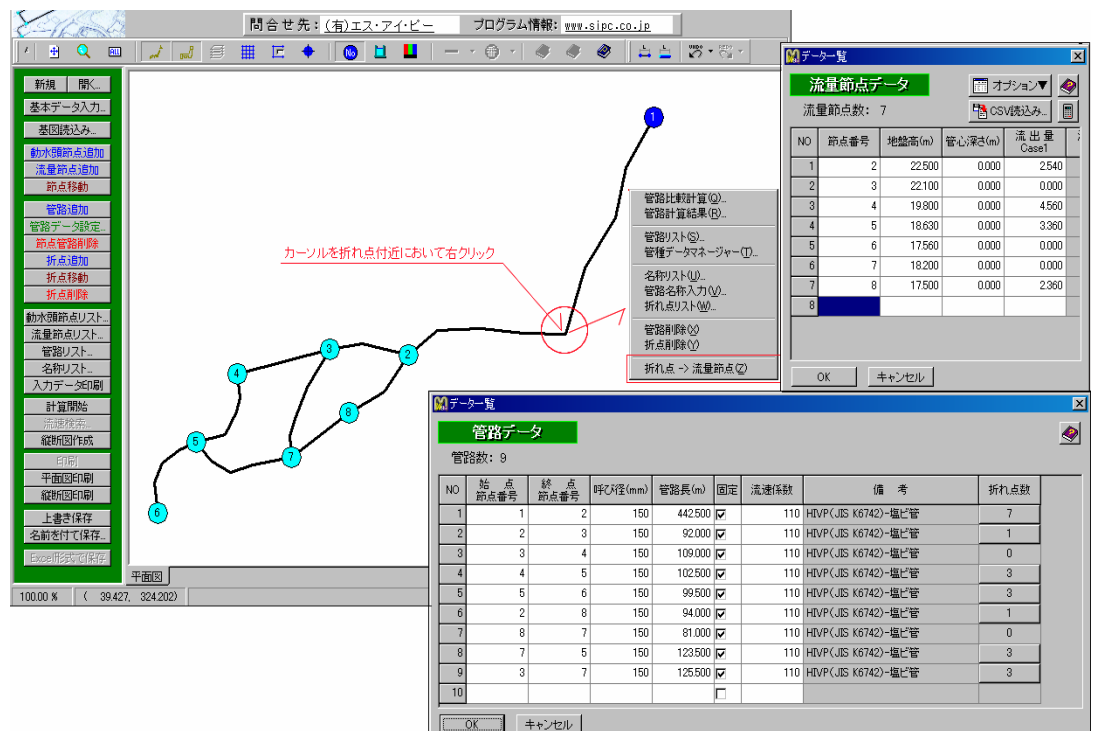
＜折れ点→流量節点への変換方法＞

コマンドバー「折点追加」ボタンをクリックして表示される管路図において、流量節点に変換したい「折れ点」上にカーソルを置き、右クリックするとプロパティ画面が表示されます。プロパティ画面の下にある「折れ点→流量節点」をクリックすると「流量節点」に変換されます。



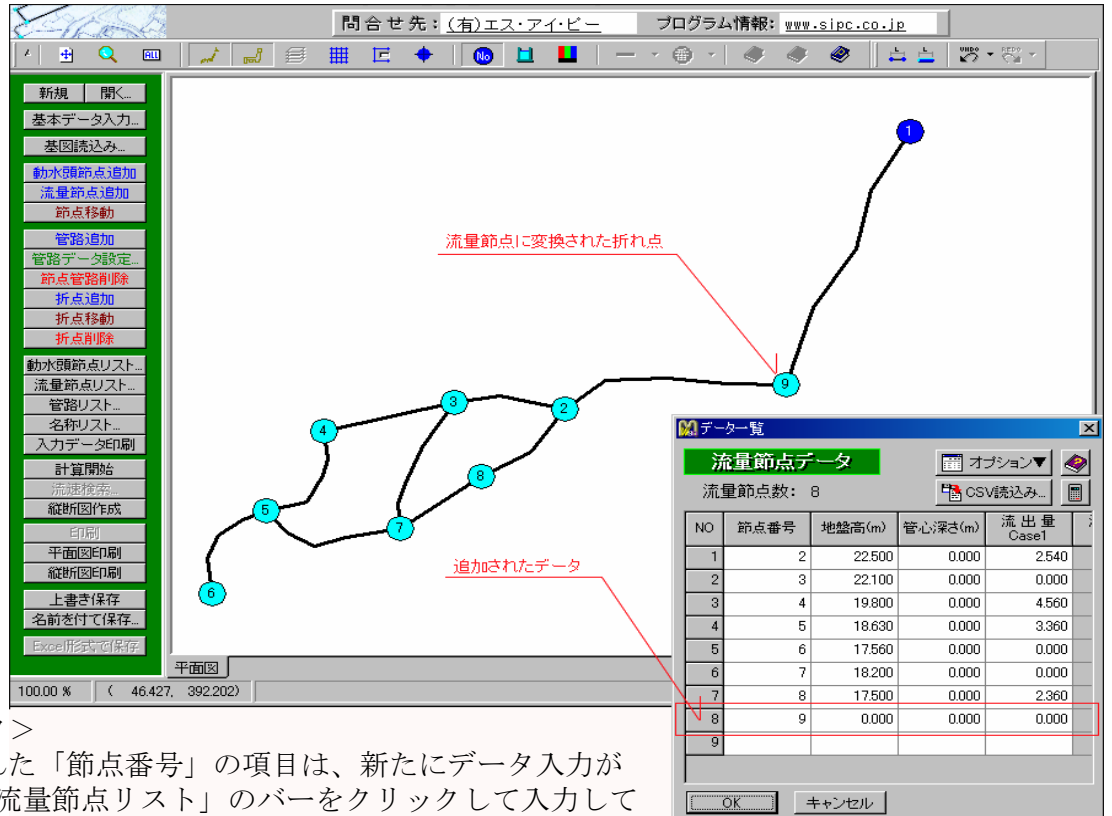
管路図を表示している画面上でも、変更したい折れ点の位置を特定できていれば、同様にその位置で右クリックしてプロパティ画面を表示、変換が可能です。

流量節点に変更することで「流量節点データ」および「管路データ」も自動的に変更されますが、データの入力が必要となります。次ページ参照



<変換された流量節点と入力データ項目への追加>

「折れ点」が流量節点に変換された事により、「流量節点データ」と「管路データ」リスト上に変換された節点番号（既已取得されている節点番号の末端の番号が適用されます）が、自動的に追記登録されます。また、縦断面図については、変換された管路を含む場合に自動的に変更されます。



<流量節点データ>

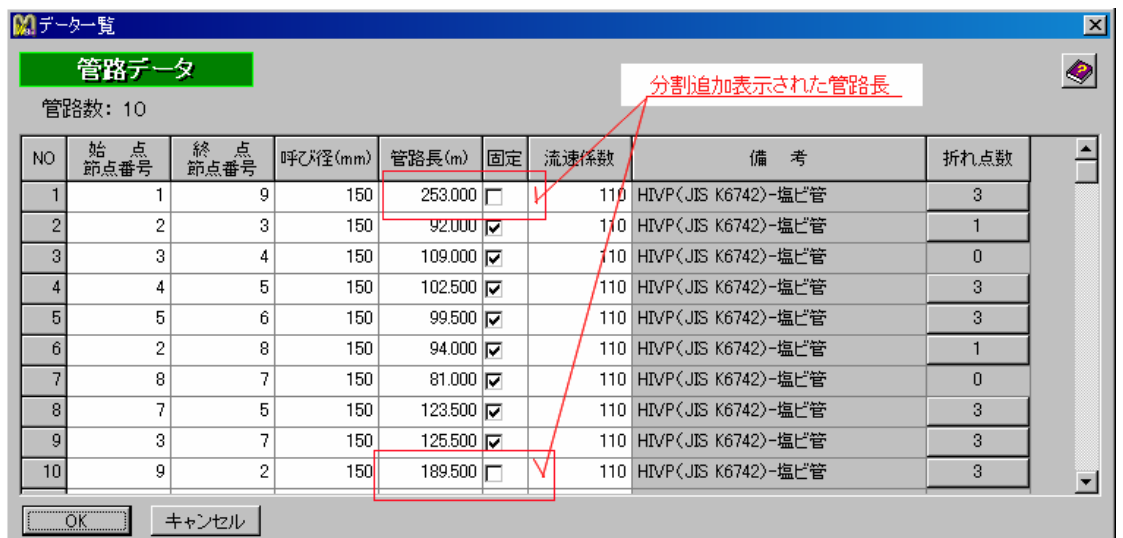
追記登録された「節点番号」の項目は、新たにデータ入力が必要です。「流量節点リスト」のバーをクリックして入力して下さい。

<管路データ>

管路データでは、下記の条件により追加登録されていますので必要に応じて修正を行って下さい。

- 1) 分割された管路は、既存管の管種データが適用され、管路長は自動算出されます。
- 2) 管路を固定（レ点マーク）としていた場合は、固定（レ点）が解除され、分割された管路長で表示されます。（下図参照）

但し、ひとつの管路長の分割数が複数ある場合、分割する前の管路長と分割した後の管路長の合計が、端数処理により一致しない場合があります。この様な場合は、手入力により変更調整して下さい。



<変換後元に戻す方法/注意点>

- 1) 「折れ点→流量節点」は変換可能ですが、「流量節点→折れ点」に変換する機能はありません。一度変換した「流量節点」を「折れ点」に戻したい場合は、ツールバーの「Undo」機能を利用して元に戻すことは可能です。但し「Undo」は、「プログラムの終了」もしくは「データの保存」を行った時点でクリアされますのでご注意ください。